

高校野球のマナーとルールを学ぼう (第84回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

マナー編 試合のテンポを良くするボール回しとは・・・

秋季県大会でのことです。ボール回しをする内野手に対し、審判員が何か言葉をかけていました。投球練習の後などボール回しをするシーンはよく見かけますが、ボール回しについて、何か気を付けることがあるのでしょうか。

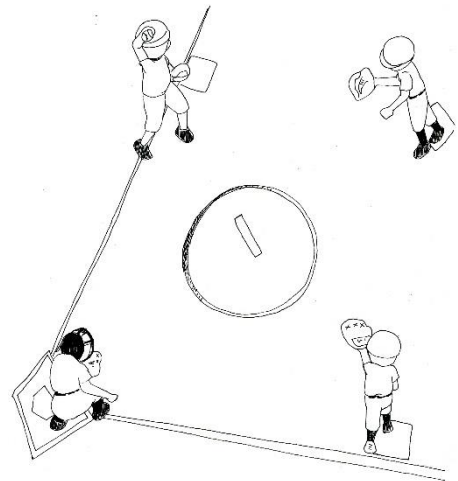
試合中、内野内でボール回しを行うチームはよくありますが、正確で連携のとれたボール回しを見ると、試合のリズムやテンポアップにもつながっていると感じます。しかしながら、テンポの良いスムーズな試合展開を図るためには、ボール回しの方法についても一定のルールがあることを知っておく必要があります。

高校野球では、「高校野球審判の手引き（平成29年度）」の76ページから記載されている「大会運営上の留意事項」の中で、ボール回しについて次のような記述があります。『**⑬ボール回しをするときは、一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上でアウトになったときのボール回しは禁止する。なお、試合が延長戦に入ったときや試合が長引いたときも考慮する。**』

試合を見ていると、内野手がマウンドに近付きながらボール回しをし、最終野手が、投手の至近距離で返球しているケースをよく目にします。最終野手は、定位置から返球することとなっていますので、日頃の練習試合などから各野手が定位置でボール回しをするよう心掛けたいものです。

また、試合展開や天候などの状況により、審判員が両チームにボール回しを止めるよう促す場合があります。

テンポの良い試合運びをするためには、**投手は打者を待たせない、打者は投手を待たせない**という意識でプレイすることが大切です。そのため、ボール回しを止めた場合においても、野手は速やかに投手に返球するよう心掛けましょう。



ルール編 危険なプレイ

明治神宮大会の1回戦、日大三対日本航空石川戦で、次のようなプレイがありました。6対6で迎えた9回裏日本航空石川の攻撃、2死1、2塁で打球はライト前へヒット。打球を捕球した右翼手が、本塁へ送球し、送球を受けた捕手がタッグしようとした際、滑り込んだ走者と接触。接触を受け捕手がボールを落球したため、球審は一旦セーフをコールしましたが、4審で協議の結果、走者の危険な行為における妨害を適用し、走者をアウトに訂正し、3アウトとして延長戦に入りました。このプレイについて一緒に考えてみましょう。

このプレイでは、ボールをミットで保持し、タッグプレイを試みようとした捕手に対し、走者が勢いを維持したまま、捕手に向かってスライディングした際、走者の膝が捕手の胸部に衝突し、捕手が仰向けに倒れ、そのままタンカで運ばれるという事態になりました。

野球規則6.01(i)においては、**本塁における走者及び捕手の衝突プレイについて、妨害行為としてのルール**が規定されています。更に、アマチュア野球内規⑩においても、プレーヤーの安全を確保するため、**攻撃側及び守備側のプレーヤーが意図的に相手に対して、体当たりあるいは、乱暴に接触するなどの行為を禁止する危険防止ルール**を設けています。

この危険防止ルールでは、「**タッグプレイのとき、野手がボールを明らかに保持している場合、走者は(たとえ走路上であっても)野手を避ける、あるいは減速するなどして野手との接触を回避しなければならない**」と定められています。そして、「①野手との接触が避けられた、②走者は野手の落球を誘おうとしていた、③野手の落球を誘うため乱暴に接触したと審判員が判断すれば、その行為は故意とみなされ、たとえ野手がその接触によって落球しても、走者にはアウトが宣告される」とあります。

この規定により、4審協議の結果、走者はアウトを宣告されたものと解されます。今回のプレイの結果、捕手は、重傷を負ったため、その後、救急車で病院に搬送され、手当てを受けたと報道されていました。ちょっとした不注意なプレイが、若い選手の選手生命を絶つことにもなることから、ラフプレイは、日頃から厳に慎んでいきたいものです。



イラスト協力: 兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
マナー編: 竹原 空 さん(2年)
ルール編: 山口ひかりさん(2年)